

# 症例報告を書く前に 「疾患」について調べておこう！

～症例報告を作成するにあたって～

2026年10月5日  
DAPAカンファレンス

吉村はりきゅう治療院  
吉村 英

# なぜ、事前に疾患を調べるのか？

症例報告を作成するにあたって

その疾患は本来どのような経過をたどるのか？

標準的な治療をおこなうと、どのような経過になるのか？

今回の症例は、一般的な経過と比べてどうだったのか？

鍼灸治療はどんな影響を及ぼしたのか？



「鍼灸をしたら改善した」だけでは、症例報告として評価しにくい！

鍼灸をしなくても治ってたのでは？ 鍼灸にはどんな効果があったのか？

# まず確認する3つのこと

- ① 疾患の概念：どんな疾患なのか／病態・症状・診断
- ② 予後・自然経過：どのように改善・悪化するのか／期間・再発・慢性化
- ③ 転帰：最終的にどうなるのか／症状・機能・画像などの変化

# ガイドラインやMSDマニュアル、メディカルオンラインなどを活用

プロフェッショナル版 家庭版

検索

MSD マニュアル  
プロフェッショナル版

医学事典 リソース コラム 診察・手技

最新ピックアップ



## 単関節および単関節周囲の痛み

Alexandra Villa-Forte  
MD, MPH, Cleveland Clinic

原因が関節そのものに関連するか腱および滑液包などの関節を取り巻く（関節周囲の）構造に関連するかわからず、患者は「関節の」痛みを訴えることがある；どちらの場合も、単関節または単関節周囲の痛みは単関節痛と呼ばれる。関節内部に起因する痛み（関節痛）は関節の炎症（関節炎）によって引き起こされる。

医学論文をダウンロード 医師の総合ウェブサイト  
メディカルオンライン  
Medical\*Online

はじめての方へ ヘルプ お問い合わせ

ホーム 文献 イブックス ビデオ くすり プロダクト ブックセンター

最新情報・特集 文献検索・全文閲覧 電子書籍閲覧 医療動画視聴 医薬品検索 医療機器検索 医学書通販

キーワード 10件 Q

ホーム > 海外ジャーナルレビュー：「整形外科・理学療法」 > 鍼治療は椎間板ヘルニアによる慢性坐骨神経痛を軽減するか

### 鍼治療は椎間板ヘルニアによる慢性坐骨神経痛を軽減するか

Acupuncture vs Sham Acupuncture for Chronic Sciatica From Herniated Disk: A Randomized Clinical Trial

原文を読む

背景

鍼治療は椎間板ヘルニアによる慢性坐骨神経痛患者の痛みを軽減し、機能を改善するか。  
中国Beijing University of Chinese MedicineのTuらは、216名の患者を4週間10回の鍼治療またはシャム治療に割り当て、RCTを行った。  
一次アウトカムは、ベースラインから4週目までの足の痛みの視覚的アナログスケール（VAS-LP）とオスウェストリ障害指数（ODI）の変化であった。

カテゴリ： 整形外科・理学療法

ジャーナル名： JAMA Internal Medicine

年月： October 2024

巻： 184

開始ページ： 1417

結論

鍼治療群はシャム治療群に比して、VAS-LPの平均減少に統計的有意差がみられた（30.8 mm vs. 14.9 mm、平均差 -16.0）。ODIの結果も同様であった（13.0 vs. 4.9 ポイント、平均差 -8.1）。VASとODIにおいて、群間差は2週目から明らかになり（平均差それぞれ-7.8・-5.3）、52週目まで持続した（-16.3・-4.8）。重篤な有害事象は発生しなかった。

はじめての方へ

個人／法人会員登録のご案内

会員ログイン

ID: 会員ID

パスワード: パスワード

ログイン

学認等SSO認証の方はこちらへ

リモートログインはこちらへ

ログインできない場合はこちらへ

# 腰椎椎間板ヘルニアを例に

x月 y日            腰痛と下肢のしびれを発症

x月 y日 + 1日    近医受診し“第4-5腰椎椎間板ヘルニア”の診断を受け、鎮痛薬を処方される

x月 y日 + 14日    鎮痛薬で疼痛軽減したが、前屈や座位で痛むので鍼灸院に来院

x月 y日 + 35日    日常生活に支障のない程度に回復したため、患者希望により治療終了

鍼灸治療により腰椎椎間板ヘルニアによる症状が改善された！！ ←ちょっと待って！

# 調べてみると、..

MSD マニュアル  
プロフェッショナル版

医学事典   リソース   コラム   診察・手技ビデオ   クイズ

本ページの各項

本章の目次

→ 頸部痛および背部痛の概要

→ 環軸関節亜脱臼

→ 頸椎椎間板ヘルニア

→ **腰椎椎間板ヘルニア**

→ 頸部脊柱管狭窄症

→ 腰部脊柱管狭窄症

→ 腰仙部神経根障害

→ 脊椎すべり症

## 腰椎椎間板ヘルニア

(腰椎の椎間板破裂, 椎間板脱出)

完全なレビュー: 2024年 11月 執筆者: [Peter J. Moley](#), MD, Hospital for Special Surgery  
| 査読者 [Brian F. Mandell](#), MD, PhD, Cleveland Clinic Lerner College of Medicine at Case Western Reserve University

最終更新日: 2024年 11月

意見 同トピックページは  
こちら

腰椎椎間板ヘルニアは、椎間板の髄核が周囲の線維輪の亀裂を介して脱出する病態である。椎間板内の感覚神経の炎症のため亀裂により疼痛が生じるほか、椎間板が隣接する神経根を侵害することで、その神経根の分布域において錯感覚とともに筋力低下を伴った分節性の神経根障害が生じる。診断は通常、MRIまたはCTで確定する。軽症例の治療は、鎮痛薬、身体活動の調整、および理学療法による。進行性もしくは重症の神経脱落症状、難治性の疼痛、保存的治療の不成功、脊髄症、または括約筋機能障害を合併した馬尾症候群のいずれかに該当する患者には、緊急または待機手術（例、椎間板切除術、椎弓切除術）が必要になる場合がある。

症状と徴候 | 診断 | 治療 | 要点 | マルチメディア

脊椎は、外側の線維輪と内側の髄核から成る線維軟骨性の円板によって仕切られている。腰仙椎または頸椎領域において、変性（外傷を伴う場合もある）により髄核が線維輪を抜けて突出または破裂すると、髄核が後外側または後方から硬膜外腔に脱出する。

MSDマニュアルプロフェッショナル版より引用

## わかったことは～MSDマニュアルプロフェッショナル版より引用～

疾患概念：腰椎椎間板ヘルニアは、椎間板の髄核が周囲の線維輪の亀裂を介して脱出する病態である。椎間板内の感覚神経の炎症のため亀裂により疼痛が生じるほか、椎間板が隣接する神経根を侵害することで、その神経根の分布域において錯感覚と、ときに筋力低下を伴った分節性の神経根障害が生じる。

## わかったことは(2)～MSDマニュアルプロフェッショナル版より引用～

予後：初期は保存的治療（NSAID等）、神経脱落症状が進行性または重度の場合は侵襲的処置（ときに手術を含む）を検討  
背部痛（原因を問わない）のある患者の最大85%が手術なしで6週間以内に回復する。

転帰：椎間板ヘルニアは乾燥し、6～9カ月以内に再吸収されるため、  
症状は治療に関係なく緩和する傾向がある。

# この症例報告にはどんな意義が？

考えておきたいこと

☞ 一般的な経過や予後、転帰とは何が異なるか？

☞ 鍼灸治療にはどんな意義があっただろうか？

☞ 「鍼灸治療で改善した」と言い切っていいのだろうか？



# まとめ:スライドを作る前に、まずは文献検索を！

疾患を理解する



一般的な自然経過・予後を知る



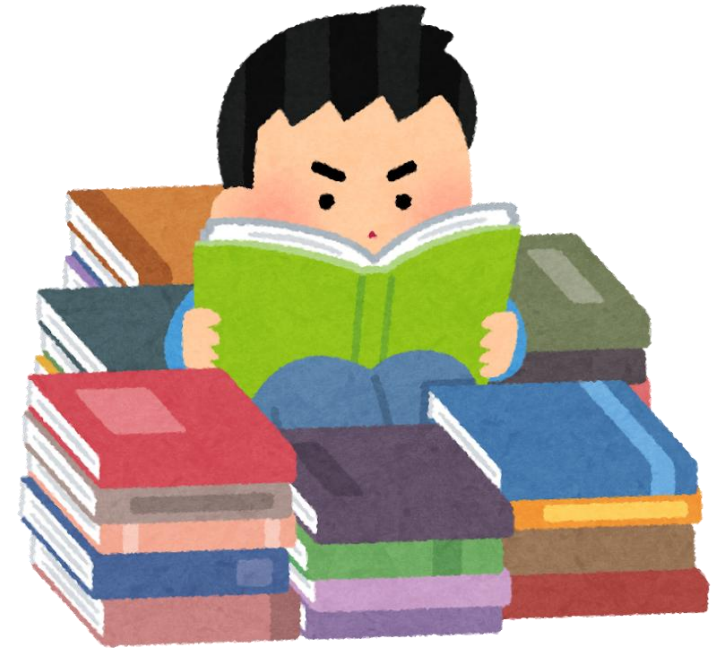
標準的治療・転帰を知る



自分の症例と比較する



「この症例は何が特徴的なのか？」を考える



# 余談ですが

こちらのニュースはAIによって編集されました

J Pain Res

## 腰椎椎間板ヘルニアによる坐骨神経痛、鍼灸と併用療法の効果を比較

2025年9月24日

 ブックマーク

 Xでシェア

腰椎椎間板ヘルニア（LDH）による坐骨神経痛に対して、鍼治療単独と比較して鍼治療と他の治療法を組み合わせた併用療法がより高い効果を示すことが、ネットワークメタアナリシスによって明らかになった。特に、ニードルナイフとリハビリテーション療法の併用が疼痛緩和に、電気鍼と吸玉療法の併用が障害改善と生活の質向上に、電気刺激とリハビリテーション療法の併用が神経学的回復に、電気鍼と電気刺激の併用が炎症反応の軽減に、それぞれ効果的である可能性が示された。この研究成果は、Journal of Pain Research誌2025年号に発表された。

### 複数のデータベースを用いた系統的検索と解析手法

本研究では、PubMed、Embase、Cochrane Library、Web of Science、CNKI、Wanfang、CQVIP、CBMの8つのデータベースを系統的に検索し、腰椎椎間板ヘルニアによる坐骨神経痛に対する鍼治療の効果を評価した。解析にはRStudioとGEMTCを用いたベイジアンネットワークメタアナリシスが実施

CareNet Academiaより引用

原著論文：Ni D et al. Efficacy and Safety of Acupuncture and Acupuncture-Combined Therapies in the Treatment of Sciatica Caused by Lumbar Disc Herniation: A Network Meta-Analysis. J Pain Res. 2025 Sep 16;18:4809-4832.